

# 資料の活用を通して「思考力・判断力・表現力」を育てる社会科学習 —名古屋市博物館との教育連携を取り入れて—

教職実践応用領域 授業づくり履修モデル  
松田 元利

## 1 研究主題の設定

### (1) 現任校の児童の実態

現任校である名古屋市立引山小学校の児童数は、約300人であり、ここ数年は微減している。学区は名古屋市の北東部に位置し、大部分は住宅地であり、大規模な公団住宅もある。また、交通量の多い道路が東西・南北に学区を分割している。

学習面においては、児童が工場見学などの体験的活動に意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、資料活用の活動は得意ではない。そのため、知識がしっかりと身につけていない児童が多く、社会的事象についての説明や考えを求められる学習場面に遭遇すると、学習への意欲が低下してしまう姿が見られる。

例えば、4年社会科「わたしたちのくらしとごみ」の学習では、焼却工場の見学に出かけごみの処理の仕方について見学して気付いたことをたくさん記録する姿を見ることができた。しかし、ごみと資源を分別する意義を考える学習場面では、名古屋市のごみ処理の現状をふまえて説明することができず、発言することのできた児童は少なかった。このように、「思考力・判断力・表現力」が十分に育っているとは言い難い。

また、6年社会科「地域の歴史を知ろう」の学習で学区の寺社や史跡、古くから伝わる道具の見学において、寺社の様子を注意深く観察したり、説明の立て札の内容を熱心に記録したりする姿が見られた。しかし、それらの資料から時代背景を読み取ったり、資料を関連付けたり、地域の特徴をまとめたりすることのできた児童は限られていた。このことから、資料の活用を通して「思考力・判断力・表現力」を育てていくことの必要性を感じた。

なお、ここにおける「資料の活用」とは、学習の問題を追究・解決することができるようにするために、各学年の段階に応じて、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用する<sup>1)</sup>ことである。そして、文部科学省によれば、「資料を効果的に活用する」とは、「資料から必要な情報を集めて読み取り（図表などに）まとめること<sup>2)</sup>」である。

### (2) 博学連携の意義

『小学校学習指導要領解説社会編』（平成20年8月）の、第6学年の内容の解説には「小学校の歴史学習では、通史的に展開し知識を網羅的に覚えさせるのではなく、国土に残る文化財を調べたり、年表や文章資料などの資料を活用したりして、人物の願いや働き、文化遺産の意味などを考え、我が国の歴史に対する興

味・関心や愛情を育てるようにすることを求めている。資料の活用に当たっては、人物の肖像画や伝記、エピソードなどによって人物への興味・関心を高めることも大切である。また、地域の博物館や郷土資料館などの学芸員から話を聞くことは、歴史的事象を具体的に理解する上で有効な学習である」とある。

以上のことから、博物館に展示されている資料を教材として活用したり、見学し学芸員から話を聞いたりすることが、児童の歴史に対する興味・関心をもたせ、児童に歴史的事象を理解させる上で有効であると考えた。それだけでなく、博物館に収蔵されている価値ある文化財を知ることは、我が国の歴史に対する興味・関心や愛情を育て、伝統文化を尊重する態度を育成する上でも有効であろう。

先行的な実践からは、実物にふれる機会を設けることで、教科書だけでは引き出せない興味や関心を児童にもたせることができる<sup>3)</sup>といった成果や、博物館を利用することで、児童の社会教育施設への興味・関心を高め、学校教育から生涯教育へと繋がっていくきっかけとすることができる<sup>4)</sup>といった博学連携の成果が明らかとなっている。

その一方で、博学連携の課題として、教員が博物館をどう活用するのか念頭に置くことの必要性<sup>5)</sup>が指摘されている。確かに、教員が「なぜ博物館を利用するのか」「どのように博物館を利用するのか」を念頭に置いていなければ、せっかく児童が博物館に出かけても、ただ見学するだけに終わってしまうであろう。また、地域の博物館の活用法にも視点を広げ、身近な博学連携を活かす必要性<sup>6)</sup>も指摘されている。

### (3) 名古屋市博物館の活用の現状

名古屋市博物館は、名古屋市瑞穂区にあり地下鉄桜山駅から徒歩5分の場所に立地しているため、名古屋市内の小学校が利用しやすい施設である。

館蔵資料は22万点を超え、常設展「尾張の歴史」では、名古屋、尾張地方の通史を知ることができる。また、企画展や特別展では、志段味古墳群や大須観音を取り上げるなど、名古屋の歴史をさらに詳しく知ることができる。

また、名古屋市立小学校3年生を対象として、「くらしのうつりかわり展」を毎年開催している。「くらしのうつりかわり展」では、児童が実際に古い道具を使うことができるコーナーがあり、多くの小学校が中学年社会「古い道具と昔のくらし」の単元の学習で活用している。

しかしながら、他の単元や他の学年の学習では、博物館を有効に活用することはできていない。

これらのことから、研究主題を以下のように設定し、研究に取り組むこととした。

**【研究主題】**

資料の活用を通して「思考力・判断力・表現力」を育てる社会科学習  
—名古屋市博物館との教育連携を取り入れて—

**2 研究の方法**

(1) 研究のねらい

社会科の学習において、「思考力・判断力・表現力」を育てることと、資料の読み取りを大切にすることは、密接な関連があるといえる。

平成23年度から実施の学習指導要領からは、小学校社会科では社会的事象を調査することと共に、各学年の目標に「資料を効果的に活用し～考える力を育てる」とあるように、資料を読み取り活用する力の育成が重視されていることが分かる。

小原（平成21年）によれば、「思考力・判断力・表現力」といった能力は、実際に子どもが授業の中で思考し、判断し、その過程や結果を表現しなければ育たない力である。すなわち、児童が社会的事象に対して「どのようになっているか」と問いかけ、資料から

必要な情報を読み取り、知り得たことをまとめることを、「思考力・判断力・表現力」の育成としている。

そのためには、児童が「おもしろい」「不思議だ」「変だ」「おもしろそうだ」と興味を持つ資料、「すごいな」と感動する資料が必要である。

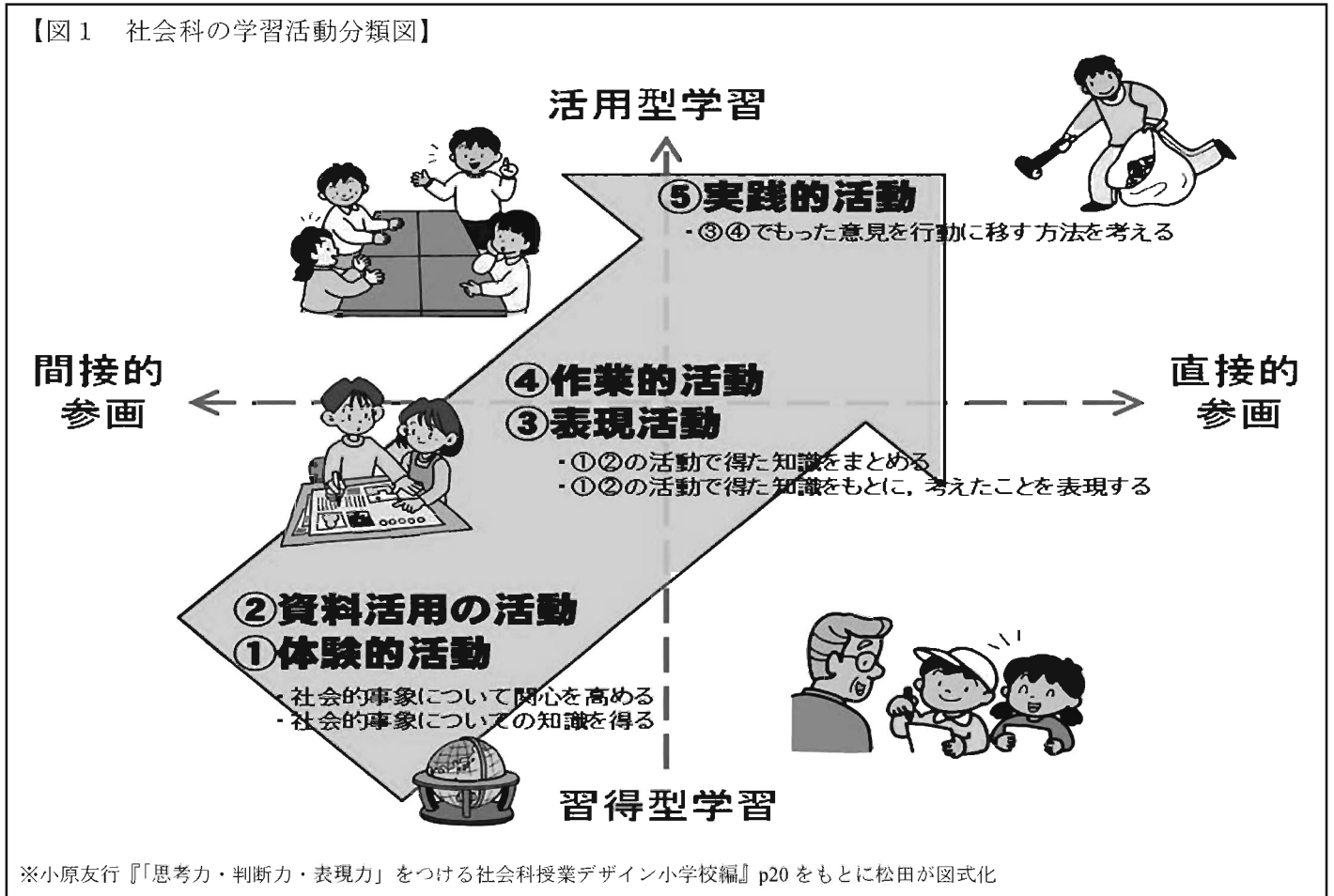
すなわち、児童が興味をもつ資料を提示することで、意欲的に資料の読み取りを行わせることができる。そして、資料を十分に読み取り必要な情報を得ることで、「思考力・判断力・表現力」を高めることができるのである。

以上のように、社会科における「思考力・判断力・表現力」とは、観点を絞って資料を読み取り、児童が必要な情報を的確に理解し、社会的事象の意味を考え説明したり、自分で社会的事象を判断しその根拠を示したりする力のことである。

さらに、社会科で「思考力・判断力・表現力」を育てるために、多様な学習活動を行うことが求められ、その学習活動は、次の5つに分類することができる。

- ①体験的活動（調査、直接体験など）
- ②資料活用活動（地図・年表等の読み取りなど）
- ③表現活動（レポートづくり、発表など）
- ④作業的活動（ポスターづくり、新聞づくりなど）
- ⑤実践的活動（地域行事への参加、社会奉仕活動など）

【図1 社会科の学習活動分類図】



①②の活動では、社会的事象についての関心を高めたり、知識を得たりすることができる。これは、「習得型学習」ということができるであろう。

③④の活動は、①②の活動で得た知識をもとに、考えたり、判断したり、表現したりする活動である。この③④の活動は、①②の活動で身につけた知識や技能を活用する「活用型学習」であり、まとめ方や表現方法を身につける「習得型学習」の学習でもある。

⑤の活動は、③④の活動をうけ実際に行動することである。学習指導要領では、社会参画の資質や能力を育成することが重視されている。そのため、児童の発達段階に応じて社会参画の方法を考えていく必要がある。より良い社会を形成するために、今後の社会のありようについての話し合いや討論に参加するといった間接的参画と、実際に社会に働きかける直接的参画とが考えられるであろう。これらの活動は、③④の活動でもった意見をもとに活動する「活用型学習」であるといえる。

前頁の図のように、これらの活動は相互に密接な関連があり、特に①②の活動が充実していなければ、それ以後の③④⑤の活動を有効なものとすることができないことが分かる。実践の方法として、博学連携を行うことは①②の活動を充実させることに他ならない。

## (2) 研究の仮説と手立て

### 【仮説 1】

体験学習を行ったり、児童の発達段階や学級の実態に応じて資料を提示したりすることで、資料活用能力を高めれば、「思考力・判断力・表現力」は高まるであろう。

### 【手立て 1】

社会見学や専門家から話を聞くといった体験学習を工夫したり、図や年表といった資料を、児童の発達段階や学級の実態に応じて創意工夫したりしながら、教材開発を行う。

### 【仮説 2】

博物館などの施設を活用し、児童が資料にふれる機会を設定することで、児童の地域の文化遺産についての関心を高め、伝統文化を尊重する態度を育成することができるであろう。

### 【手立て 2】

地域の博物館と連携し、地域と関係の深い資料を取り上げて、文化財の良さに気付くことができるような単元構成を検討していく。

## (3) 検証方法

### 教材開発の分析

博物館の展示物について検討し、博学連携が可能であるか分析をする。

また、取り上げた資料、博学連携の方法についても分析を行い、児童の「思考力・判断力・表現力」を高める上で適切であったかを検証をする。

### 学習プリントの分析

児童が資料から気付いたことや、予想、考えたことなどを学習プリントへ記述させる。その記述内容を分析することで、博学連携が有意義であったか、また、提示した資料が児童の実態に応じていたかを検証する。

## 3 研究単元の構想

### (1) 教材について

主教材として、「享元絵巻」を取り上げる。「享元絵巻」とは、尾張徳川家七代藩主徳川宗春の治世である享保15年(1730)から元文4年(1739)ごろの名古屋城下の賑わいや風俗が描かれた絵巻である。広小路より南の本町通を中心として、大須観音なども描かれている。

「享元絵巻」は、平成24年度に、メキシコ国立人類学博物館で開催された「侍—日本の至宝展」にも出展され、江戸時代の名古屋の繁栄を知ることのできる貴重な資料である。

現在、現物は名古屋城管理事務所が所蔵しているが、名古屋市博物館では拡大パネルも展示されている。学芸員による解説も依頼可能なことから、児童が「江戸時代の文化」について理解を深める上で、有意義な資料であるといえるだろう。

学習指導要領においては、第6学年の歴史学習において、我が国の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育てることを一層重視して、「室町文化」、「町人の文化や新しい学問に関する内容」をそれぞれ独立した項目とされた。

従来は「建造物や絵画」「歌舞伎や浮世絵」「国学や蘭学」について、いずれかを選択して取り上げていたが、改訂により全てを取り扱うこととなり、文化の学習が重視されることになった。

このような点から、名古屋における江戸文化を表現した「享元絵巻」は教材としてふさわしいものである。

### 第6学年の内容(1)

カ 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。

## (2) 単元の構想

平成16年度に全国小学校社会科研究協議会研究大会を開催し、社会科の実践研究を行った名古屋市社会科研究会のまとめ<sup>8</sup>によれば、単元構成の中に、「振り返りの段階」を設定し、教師が働きかけることで多くの児童は社会に対する見方や考え方の深まりを自覚することが明らかとされた。

また、「振り返りの段階」は必要であるが、時間数を鑑み実施の仕方についてはさらに研究を進めることが必要であるとも提言されている。

このことは、単元構成の中に他者と意見交換を行い、考えを見直す活動を位置づけることが、児童の思考力・判断力を高めることに有効であったことを示している。

学習指導要領では、思考・判断した内容を適切に伝えること（表現力）も重要視されている。これは、習得した知識や技能を活用するということである。資料を読み取ることで得た知識を活用し、根拠をもって思考・判断し、資料を示しながら表現する児童を育てることになる。

そこで、今回の研究実践では「深める」段階を設定し、他者と意見交換を行い考えを広げる活動を取り入れた。

## 4 授業実践の記録

小学校6年生 社会科 「江戸の文化」（6時間完了）  
第1時 『享元絵巻』を見てみよう

「享元絵巻」が江戸時代の名古屋の様子を描いたものであることを知る

「享元絵巻」の部分拡大図を一人ひとりに配り、「享元絵巻」の漢字の読みや江戸時代の町並みの図であることを伝えた。

名古屋の図であると伝えると、「え〜」などと驚きの声があがり、図を見つめ直す児童もいた。「名古屋の全部の絵かな？」という疑問の声も聞かれたので、次に名古屋のどの辺りかを予想していった。「〇〇観音」だよとヒントを出すと、「大須！大須観音」と気付く児童が多かった。

「大須に行ったことがある、賑やかだったよ」「豆まきをテレビで見たことがある」などと、大須について知っていることを発言する児童がいたり「大須観音はどこ？」と図から探そうとする児童がいたりした。

### 町並みに着目する

まず、町並みに注目して図を読み取ることにした。児童は建物に注目しながら、図全体に目を向けていた。

#### 〈児童の気付き〉

- ・ お寺か神社が分からない建物がある。
- ・ 屋台が多い。
- ・ 人が多くて賑やか。
- ・ 商店街みたい。
- ・ お店が横に繋がっている。
- ・ 人が集まっている。広場みたい。→祭りをやっている。
- ・ 高いところに太鼓がある。

### 人々に着目する

次に、図の中の人々に着目させた。児童は、人々の服装や髪型、持ち物、行動などを読み取った。

#### 〈児童の気付きと予想〉

- ・ 頭を剃っている人がいる。→お坊さん
- ・ 黒い着物の人がいる。→偉い人、警察、見張り、お坊さん
- ・ 竹馬みたいなものに乗って頭に何かをつけている人がいる。→芸人、遊んでいる人、宣伝している人
- ・ 肩の上に人を乗せている人がいる。→踊りをやっている、子どもに頼まれた、目立とうとしている
- ・ 太鼓をたたいている人がいる。→お祭りをしている人

【図2 単元構想図】

小学校6年生 社会科 「江戸の文化」（6時間完了）		主な学習活動	資料等
つかむ	1	「享元絵巻」の一部分を見て、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。 人々の様子や町並みに注目し、様々な身分の人々やたくさんのお店が描かれていることをとらえ、名古屋のまちがにぎわっていたことを理解する。	・「享元絵巻」
調べる	2	名古屋市博物館の見学を行い、前時の疑問を質問したり、解説を聞いたりする。 江戸時代の名古屋の町並みや人々の活動についての理解を深める。 「享元絵巻」の中の芝居小屋に関する部分から、江戸時代の文化についての関心を高める。	・博物館見学 ・学芸員解説
	3	「享元絵巻」から、江戸時代の名古屋にも芝居小屋があったことを確認する。 歌舞伎や浄瑠璃の写真や近松門左衛門の作品をもとに、歌舞伎や浄瑠璃について調べる。	・「享元絵巻」 ・歌舞伎の写真 ・浄瑠璃の写真
	4	歌川広重の浮世絵「東海道五十三次〜鳴海宿〜」をきっかけに浮世絵の広まりを調べる。 文化の広がりをになった人々について調べる。	・「東海道五十三次鳴海宿」の図 ・江戸時代の主な街道図
まとめる	5	江戸時代には、どのような文化が発展したのか振り返る。 江戸時代の文化の特徴や広がりについて、歴史見聞録にまとめる。	
深める	6	町人文化が栄えた背景を考え話し合う。 【話し合いのテーマ】 江戸時代の文化が町人文化といわれるのはなぜか。  これまでの学習を振り返ったり、話し合いの中での友達の見解を参考としたりしながら、名古屋でも町人文化が栄えていたのか考える。	・「享元絵巻」

## 疑問に思ったことをまとめる

児童からは、多くの疑問がでてきた。そこで、町並みと人々の様子について、一番疑問に思ったことをそれぞれ決めることにした。

人々についてでは、予想を出し合った「黒衣着物の人」や「竹馬みたいなものに乗って頭に何かをつけている人」について知りたいという児童が多かった。これは、児童が予想を伝え合ったことで、「実際にはどうなのだろう」と関心が高まったためであろう。

## 博物館に社会見学に行くことを知る

ここで、名古屋市博物館に出かけ、学芸員の方に説明していただくことを伝え、児童の目がかがやいた。この時間の後の休み時間には、「先生、博物館に行くのはいつですか」「実際はどんなだろう。ぼくは芸人だと思ったよ」などと話をしにくる児童がおり、その関心の高さが感じられた。

**【資料1 第1時のワークシート (一部)】**

○ 描かれている人を見て、気付いたことを書こう。

服装	予想
・ きのこをかぶっている。	→ 江戸時代はきのこをかぶる人が多かった。
・ くりくまをかぶっている人がいる。	→ 役人に見える。
・ ぼうしをかぶっている人がいる。	→ はいていると思う。

何を身に付けているのかな？

行動	
・ かたに子どもを乗せている。	→ さんで入っている。
・ 何かを売っている。	→ 食べ物や日用品を売っている。

○ 疑問に思ったことや分からないことを書こう。

(まちなみ) 何所に人があつまっているのはなぜか。	(人) くりくまをかぶっている人は何人の人なのか。
---------------------------	---------------------------

※ 一番質問してみたいことは・・・

(まちなみ) 寺か神社なのか。	(人) くりくまをかぶっている人は何人の人なのか。
-----------------	---------------------------

### 《第1時の考察》

児童の知っている町の図を教材として取り上げたことで、図に対して興味・関心をもたせることができた。そして気付いた内容から、資料1のように、博物館見学での質問したいことを考えることができた。

## 第2時「博物館見学に出かけよう」

### 「享元絵巻」の拡大パネルを見る

実際に名古屋市博物館の見学に出かけた。

児童は、常設展「尾張の歴史」の中から「享元絵巻」の拡大パネルを見つけ、「学校で見た図と同じだ」「あったあった。この人が気になるんだよ」などと声をあげていた。

また、「学校で見た図よりも、もっと広い範囲が描いてあるね」「やっぱり上に描いてある建物はお寺みたい」などと、さらに図を詳しく読み取る児童もいた。

## 学芸員に疑問について解説してもらおう

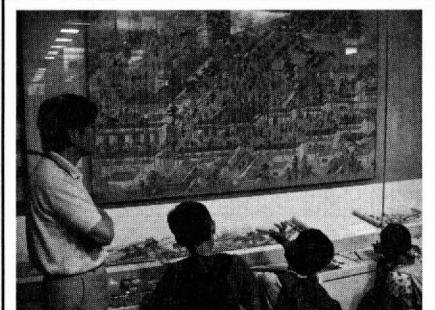
そして、児童の反応が一段落したところで、学芸員に享元絵巻の解説をしてもらった。江戸時代の名古屋の図であり、町や人々の様子が分かる資料であることを確認した。

その後、児童の質問に対し回答をもらった。

### 〈質問と回答〉

- ・ 門にある赤い像 → 仁王像
- ・ 赤い柱の建物  
→ お寺でも神社でも、当時は赤い柱にしていたと考えられている。
- ・ つながっているのは屋台なのか  
→ 物を売っているのだから、お店です。屋台に見えるが、確かなことは分からない。
- ・ どういった物を売っているのか  
→ 食べ物や日用品を売っている。
- ・ 黒い服の人はどんな人か  
→ 武士やお坊さんと考えられる。
- ・ 履き物が高く、頭に何かのせている人  
→ 物売りだと考えられる。近くに子どもがいるので、アメや小物を売っているのではないだろうか。
- ・ 屋根の上の太鼓  
→ 芝居小屋の太鼓と考えられる。芝居は浄瑠璃や歌舞伎。

多くの質問に対し、「実際は分からないが」と前置きしつつも考えられることを丁寧に回答していただくことができた。児童は、疑問が解決し満足そうであった。



【写真1 見学の様子】

### 《第2時の考察》

専門家である学芸員から話を聞く機会を設けたことで、児童は興味・関心をもって話を聞くことができた。

専門家から、時代背景をふまえながら質問の回答をいただいたことで、児童は納得したり、満足したりしている様子であった。事前に疑問について予想してあったことも、興味・関心をもって話を聞くことができた一因であろう。

また、「享元絵巻」の価値を知り、改めて細部を見直す児童もいた。

### 第3時「江戸時代の芝居について調べよう」

#### 「享元絵巻」から芝居小屋を確認する

前時の博物館見学を思い出させ、児童に屋根の上の太鼓はどのような役割があるのか確認をした。すると、すぐに「芝居小屋の太鼓だよ」「お祭りではなかったね」といった答えが返ってきた。そして、もう一度「享元絵巻」で太鼓のある建物を確認していった。「いくつもの太鼓があるね」「芝居が人気だったのかな」といった声があがった。

「芝居小屋では、どんな芝居をやっていたのかな？」と問いかけると、「浄瑠璃とか歌舞伎と学芸員さんが言っていたよ」と答える児童がいた。重ねて「浄瑠璃とか歌舞伎というのは、どんなものなの？」と問いかけると、「う～ん」「見たことない」と返答に困ってしまっていた。

そこで、本時は歌舞伎と浄瑠璃について学習することを伝えた。

#### 歌舞伎や浄瑠璃の写真を見る

歌舞伎の写真を見せると、「うわ～、すごい顔」「こっちが歌舞伎かな」という声があがり、浄瑠璃の写真には「人形を使っているね」という反応があった。歌舞伎、浄瑠璃がどのような雰囲気で行われているのか、違いに気付いた様子であった。

#### 資料を読み取り、歌舞伎と浄瑠璃について調べる

その後資料を配付し、その資料を使いワークシートに歌舞伎と浄瑠璃の歴史や特徴をまとめていった。児童は歌舞伎も浄瑠璃も江戸時代に盛んになったことを読み取ることができた。

#### 近松門左衛門について知る

「浄瑠璃の人気にはある人物がかかわっているよ」と投げかけ、浄瑠璃にかかわりのある人物を調べさせた。ヒントとして年表を提示してあったため、児童はすぐに「近松門左衛門という人だね」と調べることができていた。そこで、「近松門左衛門の人気の秘密を調べよう」とさらに調べるよう促した。児童は、「町の人の様子を芝居にしたから」「町人が主人公だったみたいだよ」などと、調べることができた。

#### 芝居を見に来ていた人々について知る

ここで、どのような身分の人が芝居を見に来ていたのか、「享元絵巻」で確認することとした。「享元絵巻」の太鼓の周辺を見た児童は、「たくさんの人がいるね」「町人が多そうだよ」「黒い服の人もあるよ。武士だったよね」などと、江戸時代の芝居は町人が多く見に来ていたことや、武士も見に来ていたことを確認することができた。

また、平安時代や室町時代と比較し、文化の担い手

が町人へと変化したことも確認した。

#### 【資料2 第3時のワークシート（一部）】

この町の庶民や武士、男の人も女の人も来ていた。

にぎわっていたのは名古屋だけ？・町人が文化を楽しむために、名古屋だけでなく各地にもにぎわっていたと思う。  
・町が豊かで、働いてもらえるお金が多かった。

#### 《第3時の考察》

児童の発言や記述からは、前時の博物館見学で学んだ内容が聞かれた。博物館見学の意義を確認することができた。

資料2の「庶民や武士、男の人も女の人も来ていた」という記述からは、「享元絵巻」を見直し情報を読み取ることができたことが分かる。

本時では使用した資料の分量が多かったため、十分に読み取ることができなかった児童がいた。資料をさらに精選して提示する必要性を感じた。

### 第4時「浮世絵の広がりについて調べよう」

#### 東海道五十三次鳴海宿の図を見る

本時では、まず歌川広重「東海道五十三次鳴海宿」の図を提示した。児童からは、「きれいな絵だね」「すごく細かいよ」「今の絵ではなさそうだね」といった声があがった。

ここで、「江戸時代のある町の図だよ。どんな場面かもっと見てみよう」と投げかけた。児童は「馬に乗っている人や、籠に乗っている人がいるよ」「旅の様子かな」「お店も描いてあるね」「上の方に字が書いてあるけど読めないよ」などと、気付いたことを発言していった。

児童の発言に対して、まず図には鳴海と書いてあり名古屋の地名であることを伝えた。しかし、鳴海という地名を知っている児童はほとんどおらず、反応は薄かった。次に図は浮世絵であることとを伝え、浮世絵の技法を教科書を使って説明した。「版画の一種なんだね。すごいきれいだね」「何枚も同じ図が作れるなんてすごいね」といった声があがった。

#### 浮世絵の広がりについて考える

そして、浮世絵は江戸時代に流行したことを伝え、多くの人に広がっていった理由を予想させた。児童は、「旅の人が広めた」「安かったから」などと、予想を立てていた。

その後、実際には、都市から地方へと土産として広がっていったことや、町人や百姓が広げていったことを確認した。

浮世絵が流行した背景を想像する

次に、東海道五十三次を例として、浮世絵を買う人の思いを想像させた。「旅に出たい」「行ってみたい」「人に紹介したい」といった意見が出てきた。

また、「教科書には、町人が力をつけたと書いてあるよ」という声があがったので、「町人が力をつけたというのはどういうことだろう?」と問いかけた。「町人の力はお金じゃないかな」「生活が豊かになったんだよ」と児童から反応があった。そして、「だったら旅に行けたんじゃないの」「神社にお参りに行ったと教科書に書いてあるよ」といった声もあがり、この時代の様子を理解することができているようであった。

貸本屋について知る

次に「人々の間に広がっていったのは浮世絵だけだったのかな?」と投げかけると、「他にも広がっていったと思う」「歌舞伎や浄瑠璃がそうだよ」といった声があがった。そこで、歌舞伎や浄瑠璃も地方へと広がっていったことや貸本屋も広がっていったことを伝えた。また、江戸時代の日本は識字率が高く、寺子屋が各地にあったことも伝えた。

**【資料3 第4時のワークシート (一部)】**

○ 浮世絵が多くの人に広がっていった理由を考えよう。

**【予想】**  
きれいだから、おみやげにして広まっていた。

※ 力をつけた(町人)や(百姓)たちが、視光をかねてお寺や神社へお参りの(旅)に行けるようになった。

力とは・・・  
**お金**

「浮世絵」だけが広がっていったのだろうか。考えてみよう。

**【予想】**  
広がっていると思う旅をしている人がたくさんいるから

**【実際】**  
\*がぶさやじゅうりも広がっていた。(例 享元絵まき)

《第4時の考察》

児童は、資料3にあるように、「享元絵巻」や教科書を根拠としながら、文化の広がりについて予想を立てることができた。そして、資料を読み取ることで、町人が力をつけ文化の担い手となり、様々な文化が生まれ広がっていったことを捉えることができた。

第5時「江戸の文化をまとめよう」

江戸時代の文化を歴史見聞録にまとめる

江戸時代の様々な文化について確認し、歴史見聞録

にまとめさせた。

歴史見聞録とは、単元の学習のまとめとして、資料から分かったことや自分の意見を記述するものである。各単元ごとのまとめとして、これまでの学習でも継続して取り組んできた。

歴史見聞録の作成時には、学習した教科書や資料をもう一度見直すようにさせた。その上で必要な資料を選ばせ、一人ひとりがまとめるようにさせた。

まとめとして「都市の文化が地方にも広がった」「文化がたくさんつくられたので、人々が楽しんでいた」などといった記述が書かれていた。

**【資料4 児童の作品】**

## 歴史見聞録

NO ( ) 名前 \_\_\_\_\_

時代・テーマ	浮世絵会が広がる
資料から分かったこと① (出典)	このころの人の様子をえがいた浮世絵も人々の集まりのついでに、浮世絵は、版画として大量に刷られたので安く売れて、多くの人々が買い求めた。 *R.92 浮世絵会が広がる
資料から分かったこと② (出典)	江戸風景がえがかれた浮世絵が流行した背景には、このころ力をつけた町人や百姓たちが観光をかねてお寺や神社へお参りのついでに行けるようになったことである。 江戸や大阪などの都市の文化は地方にも広がった。 *R.93 浮世絵会が広がる
まとめ	浮世絵は版画として大量に刷られたので安く売られ多くの人々が買い求めた。 江戸や大阪などの都市の文化は地方にも広がった。
この時代の感想や、もっと調べてみたいこと	力をつけた町人や百姓たちがお参りに行けるようになったからすごいと思った。
次の時代の予想	ほかのものもはやると思う。

《第5時の考察》

それぞれ、テーマとする文化を決めさせ、歴史見聞録にまとめさせることで、教科書や学習してきた様々な資料の中から、必要な情報を抜き出すことができていた。

第6時「江戸の文化について話し合おう」

江戸時代の文化の担い手を確認する

前時までの学習を振り返らせるために、知っている江戸時代の文化をワークシートに書き発表させた。ほとんどの児童が、複数の文化を書くことができ、「浄瑠璃」「浮世絵」「歌舞伎」「相撲」「花火」などがあると発表することができた。

次に、「文化の中心を担ったのは、誰だったのか

な？」と問いかけると「町人」と答えが返ってきた。そこで、江戸時代の文化は町人文化とも言われていることを伝えた。

### 町人文化について考える

次に「江戸時代は武士による江戸幕府もあるのに、なぜ町人文化と言われているのだろうか？」と投げかけ、町人文化と言われる理由を考えさせた。

- T : 町人文化っていうふうには何でだろう。江戸時代で江戸幕府もあるんだから、武士の文化でもいいじゃないですか。
- C1 : 町人が見たり、楽しんだんでしょ。
- C2 : 町人の力が強くなって、新しい文化が生まれた。
- C3 : 町人が多い。
- C4 : 町人が楽しんで、見たり行ったりしていたから。
- T : 町人の力が強くなって、それで文化が生まれたんだね。何で、町人が力をつけることができたんだろうね？
- C4 : お金をもったから。
- T : どうやってお金をもつようになったの？
- C5 : 働いた。
- C6 : 産業が発展した。資料集 69 ページに書いてあるよ。
- T : 産業が発展するって？
- C7 : 流通が盛ん。物が動くこと。
- C8 : 買う人が増えるとお金が増える。
- C9 : 江戸の町は政治とかの中心で人が多かった。

児童は、教科書や資料集を根拠に、都市部で経済活動が活発になり、町人が力をつけたことを捉えることができていた。

### 名古屋の様子について考える

次に「江戸は賑わっていたそうだけど、名古屋はどうだったのかな？」と問いかけた。

- T : 名古屋はどうだったのかな？
- C10 : 賑わってたと思うんだけど。歌舞伎とかやっていたし。
- C11 : 「享元絵巻」に芝居のことがのっていた。名古屋のまちでやっていた。
- C12 : 大須観音前。
- T : 歌舞伎とかは名古屋でもやっていたんだよね。「享元絵巻」の中だとどの辺りだったかな？
- C13 : 人が集まっているところ。太鼓がある。
- C14 : 出店とかが盛ん。店が並んでいる。
- C15 : 名古屋の陶器や織物が流通していた。
- T : どこから分かったの？
- C15 : 資料集の 69 ページ。
- C16 : 本当だ。織物、陶器もかいてある。名古屋も賑わっていたんだ。

このように、児童からは「享元絵巻」などを根拠として考えた意見が出された。

### 【資料 5 第 6 時のワークシート (一部)】

#### 町人文化といわれるのはなぜだろうか？

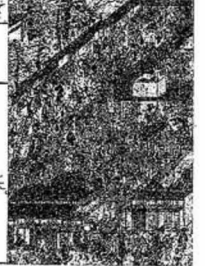
(自分の考え) 町人が文化を多く楽しんだから。	(友達の考え) 町人が浮世絵をたくさん買ったから。
----------------------------	------------------------------

#### 町人が力をつけた理由を考えよう

(自分の考えや根拠) 物を売ってお金をかせいだ。P87の江戸のまちかどをえがかれた絵にのっているから。	(友達の考えや根拠) 産業が発展した。流通がさかん ⇒ 買う人が増える。手作り商品が中心。お店で作っていた。お金をかせいでいた。発達した町がにぎわった。
--	---

#### 名古屋はどうだったのだろうか？

(自分の考えや根拠) にぎわっていたと思う。享元絵巻で、お店がたくさんあつたし、かぶきや祭りをやっていたから。	(友達の考えや根拠) にぎわっていた。かぶきをやっていた。流通がさかん。陶器や織物を作っていた。
--	---



#### 〈児童の記述内容〉

- ・ (名古屋も) にぎわっていたと思う。「享元絵巻」でお店がたくさんあつたし、歌舞伎や祭りをやっていたから。
- ・ 名古屋もにぎわっていた。「享元絵巻」に書いてあつた絵はにぎわっていたから。
- ・ 「享元絵巻」を見て、名古屋もにぎわっていたのがわかった。
- ・ にぎやかだっただと思います。歌舞伎とかがやっていたから。「享元絵巻」からわかった。
- ・ 名古屋も商業が発達し流通がさかんでにぎわっていた。(享元絵巻)

「享元絵巻」を根拠として意見を書いた児童

12名 / 31名

出典を書けていないが、「享元絵巻」を根拠に意見を書いたと考えられる児童 8名  
資料集を根拠に意見を書いた児童 3名  
前時までの学習を根拠にした児童 1名  
根拠不明、無記入 7名

#### 《第 6 時の考察》

資料 5 のように、児童は「享元絵巻」や博物館で学芸員から聞いたことを根拠として、自分の意見をまとめ話し合いに参加し、考えを深めることができていた。このことから、名古屋市博物館との教育連携は意義があつたと言えるであろう。



## 5 成果と課題

### (1) 本研究の成果

学習指導要領において、「町人の文化や新しい学問に関する内容」をそれぞれ独立した項目とされ、教科書には新単元として江戸の文化の資料が多数掲載されている。しかし、それらの資料は江戸や大阪、京都の資料が中心であった。

本研究の成果として第1に、教科書の資料に加えて名古屋の地域資料である「享元絵巻」を取り上げたことで、児童の学習意欲が高まり、第1時においては、すみずみまで「享元絵巻」を読み取り、意欲的に活動に取り組む児童の姿が確認できた。

第2に、名古屋市博物館との教育連携を取り入れ、学芸員から話を聞いたことで、児童の「享元絵巻」への興味・関心を高め、文化財の良さを実感させることができた。そのため、博物館の方と複数回に渡って打ち合わせをし、単元構成を示し学習のねらいを伝えたり、児童の疑問を事前に伝えたりすることで、効果的な学習を行うことができた。

第3に、「享元絵巻」と教育連携は、児童の「思考力・判断力・表現力」を高める上でも有効であった。資料6の児童の思考の流れのように、学級の3分の2程度の児童が「享元絵巻」を根拠として、江戸時代の名古屋の様子を考えることができていた。また、話し合いでの発言においても「享元絵巻」についての学芸員の説明をもとに、意見を述べている児童もいた。

以上のように「享元絵巻」は様々な内容を読み取るだけでなく、学習した内容を確認することや、児童が繰り返し活用することができる資料であった。このことから適切な教材開発と教育連携は、児童の資料活用の能力を育て、「思考力・判断力・表現力」を高めることができたといえる。

### (2) 今後の課題

本研究では、主教材である「享元絵巻」以外にも、図や写真、年表などの多くの資料を児童に提示した。しかし、1時間で読み取るには分量が多すぎたり、資料のどの部分に注目させ何を読み取らせたいのかはつきりとさせないまま提示してしまった資料もあった。そのため、児童が必要な情報を読み取ることが難しく、意見を考える際に根拠にはできなかつた資料もあった。

今後、さらに教材研究を進め資料を吟味し、児童の発達段階に応じて提示していくことで、情報を的確に読み取ることができるようにしていく必要性を感じた。そうすることで、児童は複数の資料を有効に活用し「思考力・判断力・表現力」をさらに高めることができるであろう。

また、各時間で使用するワークシートについても、工夫が必要であった。学習前の考えと学習後の考えを記述する欄を設定しておくなど、児童の思考の変容が分かるようなワークシートを開発することで、「思考力・判断力・表現力」の高まりをより明確にすることが可能であろう。

本研究では、「江戸の文化」の単元について名古屋市博物館との教育連携を取り入れて実践を行った。今後さらに連携を進めるためには、他単元についても教材開発が必要であろう。

名古屋市博物館には、資料7のように小学校6年生の歴史学習において活用が可能な資料が収蔵されている。博物館の資料を活用しながら児童の「思考力・判断力・表現力」を高めることができる単元構成モデルの作成や実践によって教育連携を進め、さらに研究を深めていきたい。

【資料6 単元での児童の思考の流れ（抽出）】

	男児	白児	〇児
【第1時】 （「享元絵巻」中の黒い服の人物についての予想）	黒い服を着ている人がいる えらい人か警察	黒いものをあっている人 えらい人なのかな	武士みたいな服装 武士
↓	↓	↓	↓
【第3時】 （「享元絵巻」で芝居見学していた人についての読み取り）	この町の庶民や武士 男の人も女の人も来ていた	武士や町の人が見に来ていた	おばうさん 武士 町民
↓	↓	↓	↓
【第5時】（歴史見聞録のまとめへの記述）	浮世絵は人々の楽しみの一つになっていて、海外の画家に取り入れられるほど素晴らしいものだった。	町人文化として人形浄瑠璃は町民に親しまれている この時代は江戸文化として町人文化が発達した	この時代は百姓や町人が力をつけてきた 町人の文化が発達してきていて、いろいろな町に広がっていた
↓	↓	↓	↓
【第6時】 （町人文化と言われる理由についての意見と根拠）	町人が文化を多く楽しんだから 物を買ってお金をかせいだ。 教科書87ページの江戸の町の絵にのっているから	町人の力が強くなって生まれた文化だから 各地で産業が発展して町人が力をつけた この時代のときは手作り商品が中心だった	町人が力をつけてやっていたから 主に町人が楽しんでいたから 産業が発展したから 流通がさかんになった
↓	↓	↓	↓
（名古屋は賑わっていたのかについての考えと根拠）	にぎわっていた 「享元絵巻」でお店がたくさんあったし、歌舞伎をやっていたから	江戸に真げないくらい栄えていた 「享元絵巻」にたくさんの人が描かれているから	にぎわっていた 名古屋は五街道の近くで、旅人が行き来していたと思うから （資料集69ページ）人が多し（「享元絵巻」）

【資料7 活用が可能であろう資料の例（名古屋市博物館）】

単元名	時数	時代	資料名
縄文のむらから古墳のくにへ	8	縄文 弥生 古墳	貝塚の断面模型 埋葬された人骨(復元) 銅鐸 田揚げた
天皇中心の国づくり	9	飛鳥 奈良 平安	皇朝十二銭 木簡
武士の世の中へ	6	平安 鎌倉	高田荘絵図 北条時宗寄進状
戦国の世から江戸の世へ	10	室町 安土桃山 江戸	刀狩条図 検地帳 長篠合戦図
明治の国づくりを進めた人々	7	江戸 明治	太政官高札(五榜の掲示) 地券
世界に歩み出した日本	7	明治 大正	名古屋明細図絵 熱田築港資料 1910年共進会資料
長く続いた戦争と人々の暮らし	7	昭和	衣料切符 代用品(陶器の湯たんぽ) 尋常小学校写真

## 付記

教職大学院において研修する機会を与えてくださいました名古屋市教育委員会にお礼を申し上げますとともに、研修にご理解・ご協力いただいた現任校名古屋市立引山小学校奥村欣平校長はじめ、教職員の皆様感謝申し上げます。

また、教育連携に多大なるご理解・ご協力をいただきました、名古屋市博物館野村均様はじめ学芸員の皆様、厚くお礼申し上げます。

課題実践研究を進めるにあたっては、丁寧に指導していただいた、愛知教育大学教職大学院の中妻雅彦教授、鈴木健二准教授をはじめ多くの先生方に心から感謝申し上げます。

この教職大学院で学んだことを、少しでも現場の先生方や児童への指導に生かせるよう、今後も研究と修養に努めていきたいと思っております。

## 注記

- \*1 安野功 寺田登「小学校学習指導要領（社会科）の改訂」初等教育資料平成20年5月号 平成20年5月 p39
- \*2 文部科学省ホームページ「新学習指導要領・生きる力（学習評価に関するQ&A）」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/qa/1299415.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1299415.htm)
- \*3 菅野咲 山田幸生「アウトリーチ教材「みんぱっく」を活用した学校と博物館の連携に関する考察」奈良教育大学教職大学院研究紀要『学校教育実践研究』平成24年3月 p46～p47
- \*4 川上昭吾 杉浦貴史 寺田安孝「学校と博物館の連携を進める実践的研究」愛知教育大学研究報告57（教育科学編）平成20年3月 p176～p177
- \*5 樋山憲彦「博物館理解を深めるための博学連携プログラムの開発-新学習指導要領を踏まえて-」平成20・21年度博学連携研究会議実践報告書 国立歴史民俗博物館 平成22年3月 p123
- \*6 柳井美重子「江戸図屏風の世界をのぞいてみよう-木更津船編-」平成20・21年度博学連携研究会議実践報告書 国立歴史民俗博物館 平成22年3月 p37～p38
- \*7 小原友行『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン小学校編』明治図書 平成21年3月 p20
- \*8 名古屋市社会科同好会「あゆみ」平成16年度 平成17年3月 p43

## 主な参考文献

### 1 文部科学省関係資料

- ・『小学校学習指導要領』平成20年3月
- ・『中学校学習指導要領』平成20年3月
- ・『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年8月
- ・『中学校学習指導要領解説 社会編』平成20年9月

- ・『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～【小学校版】』平成22年23月
- ・中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」平成20年1月

### 2 社会科教育に係る文献

- ・小原友行『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン小学校編』明治図書 平成21年3月
- ・廣嶋憲一郎『平成20年版小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり 社会』東洋館出版社 平成20年11月
- ・寺本潔『社会科の基礎・基本 地図の学力』明治図書 平成14年9月
- ・寺本潔『社会科教育全書35 五感を使ったおもしろ地図学習』明治図書 平成8年10月
- ・『名古屋市史 第三巻』名古屋市 平成11年3月

### 3 社会科教育に係る論説や論文、資料

- ・澤井陽介「社会科における言語活動の充実とその具体化」初等教育資料平成23年6月号 平成23年6月
- ・寺田登「観察・資料活用の技能」とはどんな技能か」初等教育資料平成23年5月号 平成23年5月
- ・寺田登 澤井陽介「社会科における学習評価の改善と指導の工夫」初等教育資料平成23年1月号 平成23年1月
- ・寺田登 澤井陽介「社会科における指導要録改善のポイント」初等教育資料平成22年6月号 平成22年6月
- ・澤井陽介「資料活用の技能を高め、考え・表現する力を育てる問題解決的な学習の充実」初等教育資料平成20年9月号 平成20年9月
- ・安野功 寺田登「小学校学習指導要領（社会科）の改訂」初等教育資料平成20年5月号 平成20年5月
- ・有田和正「思考力・判断力・表現力の育成—社会科の課題資料を読み取る力と表現力が課題」現代教育科学 No.654 明治図書 平成23年3月
- ・北俊夫「小学校社会科の「資料活用能力」の実態に関する調査」岐阜大学教育学部研究報告教育実践研究第7巻 平成17年
- ・神奈川県立総合教育センター「神奈川県「読解力」向上のためのガイドブック中学校社会解説」平成19年3月
- ・神奈川県立総合教育センター「神奈川県「読解力」向上のためのガイドブック小学校社会解説」平成19年3月
- ・名古屋市社会科同好会「あゆみ」平成22年度 平成23年3月
- ・名古屋市社会科同好会「あゆみ」平成16年度 平成17年3月
- ・伊東大介「一度だけのれきはく見学 どう連携？ どう活用？」平成20・21年度博学連携研究会議実践報告書 国立歴史民俗博物館 平成22年3月